

岩手県感染症週報

令和6年第21週 (5月20日～5月26日)

岩手県感染症情報センター

第21週の概要

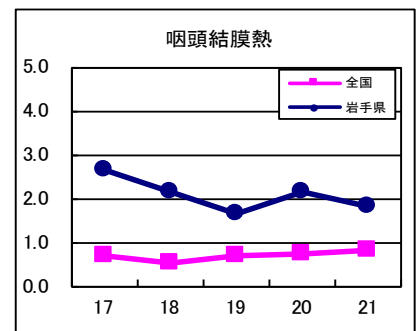
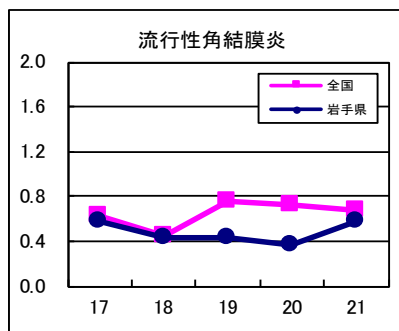
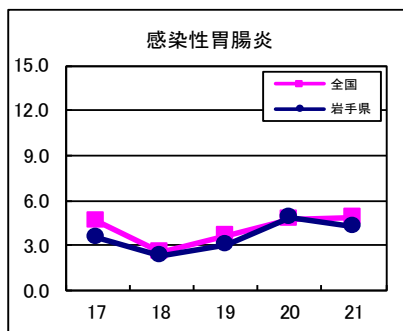
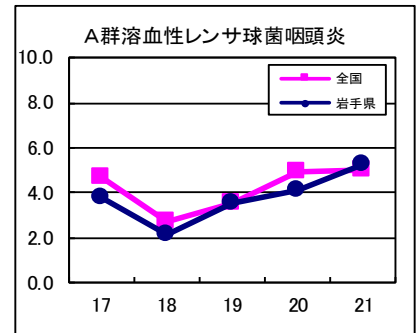
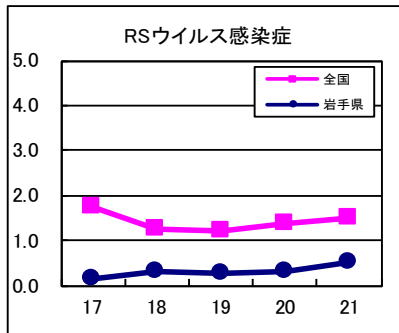
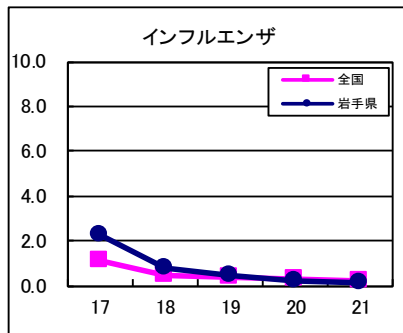
- 1 類感染症
 - ・患者発生の報告はありませんでした。
- 2 類感染症
 - ・患者発生の報告はありませんでした。
- 3 類感染症
 - ・腸管出血性大腸菌感染症の報告が4例ありました。
- 4 類感染症
 - ・つつが虫病の報告が1例ありました。
- 5 類感染症 (全数把握対象疾患)
 - ・劇症型溶血性レンサ球菌感染症の報告が4例ありました。
 - ・後天性免疫不全症候群の報告が1例ありました。
 - ・梅毒の報告が2例ありました。
 - ・バンコマイシン耐性腸球菌感染症の報告が1例ありました。
- 5 類感染症 (定点把握対象疾患)
 - ・A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は増加し、定点あたり患者数は5.25人となりました。県央及び奥州地区で警報値である8人を超えています。全国的に増加の傾向にあります。発熱や全身倦怠感、咽頭痛を主症状とする細菌感染症です。本菌の感染により稀に引き起こされる劇症型溶血性レンサ球菌感染症では、急性腎不全や多臓器不全等により死亡することもあるので注意が必要です。予防には手洗いやうがいの励行のほか、傷口の清潔保持が重要です。深い傷や発赤炎症のある傷の時は、早めの医療機関での受診をお願いします。
 - ・今年3例目のつつが虫病の報告が一関地区からありました。野外で活動する際は、肌の露出を少なくし、ディートやイカリジンといった有効成分を含む虫よけ剤を使用する、帰宅後はすぐに入浴する等、ツツガムシの幼虫に吸着されない対策が必要です。発熱、発疹、頭痛等のほか皮膚に特徴的な刺し口が見られた場合は、早期に受診しましょう。
 - ・咽頭結膜熱は減少し、定点あたり患者数は1.80人となりましたが、中部、一関及び宮古地区で警報値である3人を超えています。本症は発熱、咽頭炎、眼症状を主訴とする小児の急性ウイルス性感症です。予防には患者との密接な接触を避け、タオルは共用せず、流水と石けんによる手洗いを励行することが重要です。

「岩手県・新型コロナ対策
パーソナルサポート
(@iwatevscovid19)
ID検索またはQRコードか
ら友達追加



最近の注目疾患 (定点あたり患者数の過去5週の動き)

(疾患によって目盛りのスケールが違うことに注意)



定点把握対象疾患 (過去5週の動き)

報告週対応表 <https://www.niid.go.jp/niid/ja/calendar.html>

※2023年第19週より新型コロナウイルス感染症が定点把握対象疾患となりました。

※2018年1月1日より百日咳が5類感染症 (定点把握疾患) から5類感染症 (全数把握疾患) へ変更されました。

※2013年第42週より感染性胃腸炎 (ロタウイルス) が定点把握対象疾患となりました。(定点あたり患者数)

疾病名	地域	週					流行傾向	
		17	18	19	20	21		
インフルエンザ	岩手県	2.29	0.79	0.46	0.19	0.14	→	☆
	全国	1.07	0.45	0.34	0.28	0.24		
RSウイルス感染症	岩手県	0.13	0.30	0.28	0.30	0.53	↗	☆
	全国	1.73	1.26	1.22	1.38	1.51		
咽頭結膜熱	岩手県	2.63	2.13	1.63	2.15	1.80	↘	☆☆☆
	全国	0.70	0.51	0.68	0.71	0.83		
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	岩手県	3.75	2.15	3.53	4.13	5.25	↗	☆☆
	全国	4.66	2.69	3.54	4.91	5.03		
感染性胃腸炎	岩手県	3.55	2.30	3.10	4.88	4.23	↘	☆
	全国	4.60	2.59	3.64	4.77	4.94		
水痘	岩手県	0.13	0.05	0.23	0.18	0.35	→	☆
	全国	0.18	0.11	0.23	0.16	0.22		
手足口病	岩手県	0.00	0.03	0.05	0.00	0.03	→	
	全国	0.58	0.61	0.90	1.49	2.13		
伝染性紅斑	岩手県	0.18	0.03	0.18	0.08	0.10	→	☆
	全国	0.03	0.02	0.03	0.04	0.06		
突発性発疹	岩手県	0.48	0.23	0.55	0.38	0.40	→	☆
	全国	0.31	0.22	0.31	0.32	0.32		
ヘルパンギーナ	岩手県	0.03	0.00	0.00	0.00	0.05	→	
	全国	0.09	0.08	0.11	0.23	0.28		
流行性耳下腺炎	岩手県	0.03	0.00	0.00	0.05	0.03	→	
	全国	0.05	0.04	0.05	0.06	0.07		
急性出血性結膜炎	岩手県	0.00	0.00	0.07	0.00	0.00	→	
	全国	0.02	0.01	0.03	0.02	0.05		
流行性角結膜炎	岩手県	0.57	0.43	0.43	0.36	0.57	↗	☆
	全国	0.63	0.44	0.75	0.72	0.67		
新型コロナウイルス感染症	岩手県	6.16	3.98	4.51	4.51	3.06	↘	☆
	全国	3.22	2.27	2.76	3.28	3.35		
細菌性髄膜炎	岩手県	0.00	0.00	0.00	0.05	0.00	→	
	全国	0.01	0.02	0.02	0.01	0.01		
無菌性髄膜炎	岩手県	0.00	0.00	0.11	0.00	0.00	→	
	全国	0.02	0.01	0.02	0.04	0.01		
マイコプラズマ肺炎	岩手県	0.00	0.05	0.05	0.05	0.05	→	
	全国	0.16	0.14	0.19	0.17	0.28		
クラミジア肺炎 (オウム病を除く)	岩手県	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	→	
	全国	-	0.00	0.00	0.00	0.00		
感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	岩手県	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	→	
	全国	0.02	0.01	0.01	0.02	0.02		
インフルエンザ (入院患者) ※報告数であることに注意	岩手県	1	1	0	0	1		
	全国	50	42	31	-	-		

【流行傾向の見方】

無印 : ほとんど患者が発生していません

☆ : 患者が発生しています

☆☆ : 警報値を超えた地区が1～2地区あります

☆☆☆ : 多くの地区で警報値を超えています

全数把握対象疾患 (過去5週の動き)

※ジカウイルス感染症が2016年2月15日から四類感染症に追加されました。

(患者発生数)

分類	疾病名	(週)	岩手県					全国	
		17	18	19	20	21	累計	21	累計
一類 感染症	エボラ出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	クリミア・コンゴ出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	痘そう	0	0	0	0	0	0	0	0
	南米出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	ペスト	0	0	0	0	0	0	0	0
	マールブルグ病	0	0	0	0	0	0	0	0
	ラッサ熱	0	0	0	0	0	0	0	0
二類	急性灰白髄炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	結核 () 内は潜在性結核感染症患者再掲	2 (2)	8 (6)	3 (0)	3 (3)	0 (0)	51 (23)	246	5902
	ジフテリア	0	0	0	0	0	0	0	0
	重症呼吸器症候群	0	0	0	0	0	0	0	0
	中東呼吸器症候群 (MERS)	0	0	0	0	0	0	0	0
	鳥インフルエンザ (H5N1)	0	0	0	0	0	0	0	0
	鳥インフルエンザ (H7N9)	0	0	0	0	0	0	0	
三類	コレラ	0	0	0	0	0	0	0	2
	細菌性赤痢	0	0	0	0	0	0	1	21
	腸管出血性大腸菌感染症	0	0	1	1	4	9	62	635
	腸チフス	0	0	0	0	0	0	0	14
	パラチフス	0	0	0	0	0	0	1	4
四類 感染症	E型肝炎	0	0	0	0	0	1	9	215
	ウエストナイル熱 (ウエストナイル脳炎を含む)	0	0	0	0	0	0	0	0
	A型肝炎	0	0	0	0	0	0	3	69
	エキノкокクス症	0	0	0	0	0	0	0	4
	エムボックス	0	0	0	0	0	0	0	14
	黄熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	オウム病	0	0	0	0	0	0	0	0
	オムスク出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	回帰熱	0	0	0	0	0	0	0	1
	キャサヌル森林病	0	0	0	0	0	0	0	0
	Q熱	0	0	0	0	0	0	0	6
	狂犬病	0	0	0	0	0	0	0	0
	コクシジオイデス症	0	0	0	0	0	0	0	1
	ジカウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0
	重症熱性血小板減少症候群 (SFTS)	0	0	0	0	0	0	10	52
	腎症候性出血熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	西部ウマ脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	ダニ媒介脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	炭疽	0	0	0	0	0	0	0	0
	チクングニア熱	0	0	0	0	0	0	0	0
	つつが虫病	0	0	1	1	1	3	6	88
	デング熱	0	0	0	0	0	0	5	74
	東部ウマ脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	鳥インフルエンザ (H5N1、H7N9を除く)	0	0	0	0	0	0	0	0
	ニパウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0
	日本紅斑熱	0	0	0	0	0	0	14	95
	日本脳炎	0	0	0	0	0	0	0	1
	ハンタウイルス肺症候群	0	0	0	0	0	0	0	0
	Bウイルス病	0	0	0	0	0	0	0	0
	鼻疽	0	0	0	0	0	0	0	0
	ブルセラ症	0	0	0	0	0	0	1	1
	ベネゼエラウマ脳炎	0	0	0	0	0	0	0	0
	ヘンドラウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0
発疹チフス	0	0	0	0	0	0	0	0	
ボツリヌス症	0	0	0	0	0	0	0	0	
マラリア	0	0	0	0	0	0	0	13	
野兔病	0	0	0	0	0	0	0	0	
ライム病	0	0	0	0	0	0	0	2	
リッサウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	
リフトバレー熱	0	0	0	0	0	0	0	0	
類鼻疽	0	0	0	0	0	0	0	0	
レジオネラ症	0	0	1	0	0	6	32	655	
レプトスピラ症	0	0	0	0	0	0	0	2	
ロッキー山紅斑熱	0	0	0	0	0	0	0	0	

全数把握対象疾患 (続き) (過去5週の動き)

(患者発生数)

分類	疾病名	(週)					累計	全国	
		17	18	19	20	21		21	累計
五類感染症	アメーバ赤痢	0	0	0	0	0	2	7	213
	ウイルス性肝炎 (A型肝炎及びE型肝炎を除く)	0	0	0	0	0	1	6	79
	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	0	1	0	0	0	5	33	747
	急性弛緩性麻痺	0	0	0	0	0	0	1	13
	急性脳炎 (ウエストナイル脳炎及び日本脳炎を除く)	0	0	0	0	0	0	8	244
	クリプトスポリジウム症	0	0	0	0	0	0	0	12
	クロイツフェルト・ヤコブ病	0	0	0	0	0	0	2	66
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1	0	0	0	4	7	30	935
	後天性免疫不全症候群	0	0	0	0	1	2	15	374
	ジアルジア症	0	0	0	0	0	0	0	17
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	0	0	1	0	0	2	15	277
	侵襲性髄膜炎菌感染症	0	0	0	0	0	0	4	21
	侵襲性肺炎球菌感染症	1	1	0	0	0	4	46	1170
	水痘 (入院例)	0	0	1	1	0	4	5	181
	先天性風しん症候群	0	0	0	0	0	0	0	0
	梅毒	2	1	0	2	2	27	185	5251
	播種性クリプトコックス症	0	0	0	0	0	1	5	86
	破傷風	0	0	0	0	0	1	3	28
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	0
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	0	0	0	0	1	1	3	53
	百日咳	1	0	0	1	0	5	21	329
	風しん	0	0	0	0	0	0	0	3
	麻しん	0	0	0	0	0	0	2	24
	薬剤耐性アシネトバクター感染症	0	0	0	0	0	0	0	1

今注目の感染症

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎と劇症型溶血性レンサ球菌感染症

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、A群溶血性レンサ球菌を原因とする5類感染症定点把握対象疾患です。毎年冬から春にかけて患者が増加する傾向があります。飛沫感染や接触感染により伝播し、症状は、発熱、咽頭痛、全身倦怠感のほか、傷口からの感染によるとみられる蜂窩織炎や壊死性筋膜炎、菌血症等を引き起こすこともあります。稀に引き起こされる劇症型溶血性レンサ球菌感染症は重症例であり、A群溶血性レンサ球菌のほかB群、C群、G群の溶血性レンサ球菌も原因となります。5類感染症全数把握対象疾患に分類されており、敗血症性ショック症状のほか、肝不全、腎不全、呼吸不全の一種である急性呼吸窮迫症候群、播種性血管内凝固症候群、軟部組織炎等への劇的な症状の進行を特徴とし、死亡することがあります。

全国のA群溶血性レンサ球菌咽頭炎の報告数は、2023年10月以降増加し、過去10年間の同時期と比べ高いレベルで推移しています(図1)。また、劇症型溶血性レンサ球菌感染症の2023年の届出報告数は、1999年に統計を取り始めて以降、最多の941人となり、今年も高齢者を中心に例年より多い傾向が続いています。

一方、県内のA群溶血性レンサ球菌咽頭炎の報告数は、今年の5月以降増加し、過去5年間の同時期と比べ最も多くなっています(図2)。また、劇症型溶血性レンサ球菌感染症の届出報告数は、今週までに7人となり過去5年間と比較し多い状況です。今週の県内保健所管内ごとのA群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者数は図3のとおりです。

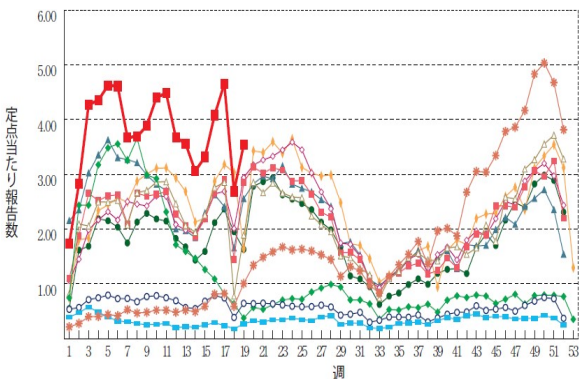


図1 全国のA群溶血性レンサ球菌咽頭炎の発生状況 (2014年～2024年第19週) (国立感染症研究所HPより)

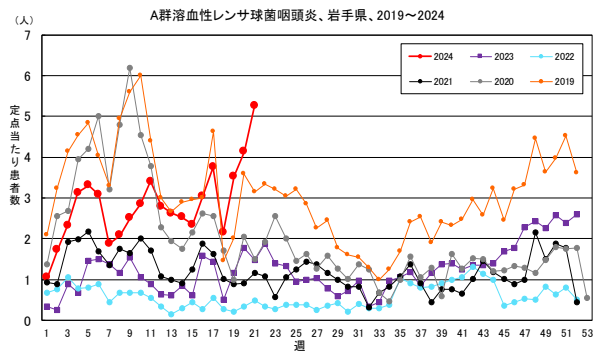


図2 岩手県のA群溶血性レンサ球菌咽頭炎の発生状況 (2019年～2024年第21週)

今注目の感染症

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎と劇症型
溶血性レンサ球菌感染症 (続き)

溶血性レンサ球菌は保菌者の飛沫や接触により感染します。特に家庭内では感染が広がりやすいので気を付けましょう。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の予防方法等は以下のとおりです。

- (1) 手洗い、うがいの励行。手指をアルコール消毒する。
- (2) 咳エチケット。
- (3) 溶血性レンサ球菌はアルコールや塩素系消毒剤等の消毒薬で死滅するので、ドアノブやおもちゃ等を清掃消毒する。
- (4) タオルの共用は行わない。
- (5) 傷口の清潔保持。症状がある場合には、早めに受診する。

【参考】

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (国立感染症研究所)

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/pneumococcal-m/group-a-streptococcus-idwrc/12361-idwrc-2343.html>

劇症型溶血性レンサ球菌感染症 (厚生労働省)

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000137555_00003.html

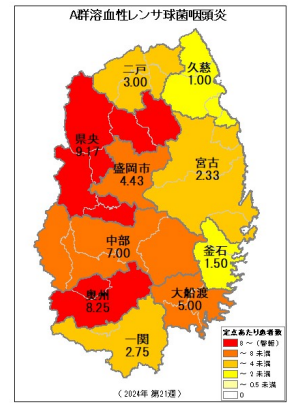


図3 第21週の保健所管内別の状況

※国土交通省国土政策局「H29年1月1日時点国土数値情報(行政区域データ)」をもとに岩手県が編集・加工した。
※この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図(国土基本情報)電子国土基本図(地図情報)を使用した。(承認番号 平29情使 第675号)

今注目の感染症

つつが虫病

つつが虫病は、つつが虫病リケッチアを保有するツツガムシの幼虫に吸着されることで感染します。ツツガムシは、ダニの一種で、野山、田畑及び河川敷などに生息しています。ツツガムシは一代に一度だけ、卵から孵化した後の幼虫期に哺乳動物に吸着し、組織液を吸います(図1)。潜伏期間は5~15日間で、主な症状は高熱(38~40°C)、発疹、頭痛で、ツツガムシによる刺し口(写真1)があることが特徴です。つつが虫病は、治療が遅れることで重症化・死亡することもあるため、疑わしい症状が出た際は早期に受診し、野外活動(農作業や山菜取り、山や河川でのレジャーなど)について医師に伝えることが重要です。

全国的には5~6月と11月~12月に患者が増加しますが、東北では雪解け後の5~6月に患者が多くなります。岩手県では、2022年に2例(5月1例、6月1例)、2023年に7例(4月1例、5月3例、6月2例、7月1例)、2024年は5月に3例の報告があり、野外活動の際には注意が必要な感染症です。

つつが虫の予防には、吸着を防ぐことが最も重要です。病原体を持ったツツガムシの幼虫が、衣服の隙間などから体表面の柔らかい部位(わきの下、内股、陰部、下腹部など)にたどり着き、体液を吸うことで感染します。一方、ツツガムシの幼虫が取り付いてから吸着するまでに、6時間以上かかるとされています。これらのことから、野外活動の際には、以下の対策をとるよう心がけましょう。

- ① 長袖、長ズボンに足首までを覆う靴を履き、素肌をさらさないこと。
- ② ディート又はイカリジンを含有した虫よけ剤を使用すること。
- ③ 帰宅後は、すぐに入浴、洗濯をすること。

【参考】

・ツツガムシ病とは(国立感染症研究所)

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/436-tsutsugamushi.html>

・マダニやツツガムシによって媒介される感染症について(岩手県)

<https://www.pref.iwate.jp/kurashikankyou/iryuu/kenkou/jouhou/1003107.html>

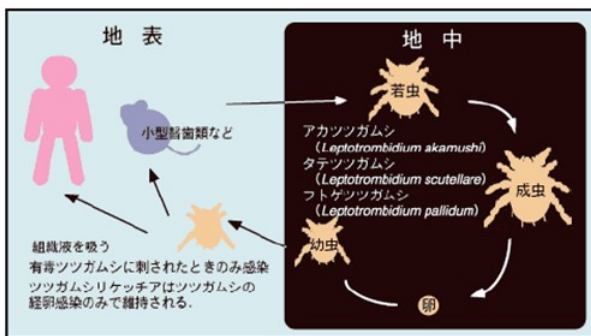


図1 ツツガムシの生活環
(国立感染症研究所ホームページより)



写真1 ダニの刺し口
(国立感染症研究所ホームページより)

今注目の感染症

咽頭結膜熱

咽頭結膜熱は、発熱、咽頭炎、眼症状を主訴とする小児の急性ウイルス性感染症です。原因はアデノウイルスで、季節特異性が少なく年間を通じて検出されます。以前は夏期に流行が見られましたが、2003年から冬期にも流行のピークが見られるようになりました(図1及び2)。岩手県内の発生状況は図2及び3のとおりです。2023年に一部の地域で流行が見られ、第50週及び第51週にピーク(定点当たり患者数2.83人)が認められました。県内各地区の発生状況は図3のとおり、今週の県内保健所管内ごとの定点当たり患者数は図4のとおりです。

咽頭結膜熱の流行を起こすのは、主にアデノウイルス3型です。ほかに4型、7型、2型、11型などがあります。

感染経路は飛沫感染や手指を介しての接触感染であり、結膜あるいは上気道からの感染が考えられます。プールを介した場合には、汚染した水から結膜への感染が考えられます。

潜伏期は5～7日と考えられており、発熱、頭痛、食欲不振、全身倦怠感、咽頭痛、結膜炎、眼痛、流涙、眼脂などの症状が見られます。通常、眼に障害などは残りませんが、生後14日以内の新生児に感染した場合は、全身性感染を起こしやすく、重症化する場合がありますことが報告されています。

予防方法としては、患者との密接な接触やタオルの共用を避けること、流水と石けんによる手洗いやうがいがあります。ドアノブやおもちゃなどを塩素系消毒剤で消毒することも効果的です。

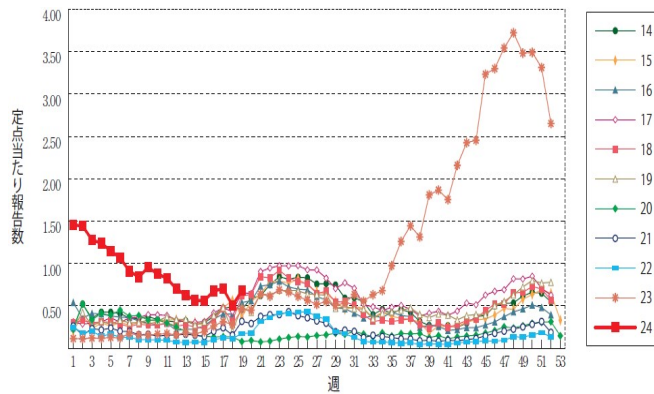


図1 全国の咽頭結膜熱の発生状況(2014年～2024年第19週)
(国立感染症研究所HPより)

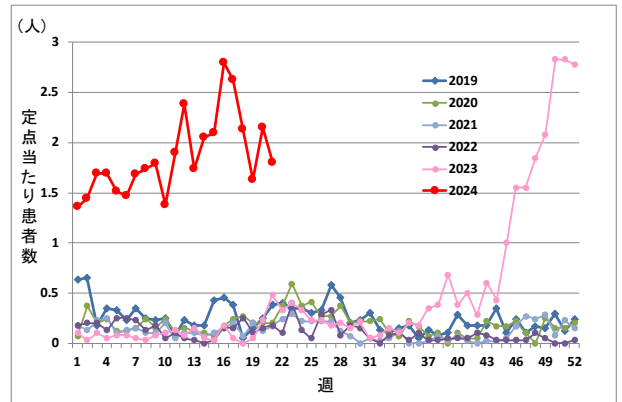


図2 岩手県の咽頭結膜熱の発生状況
(2019年～2024年第21週)

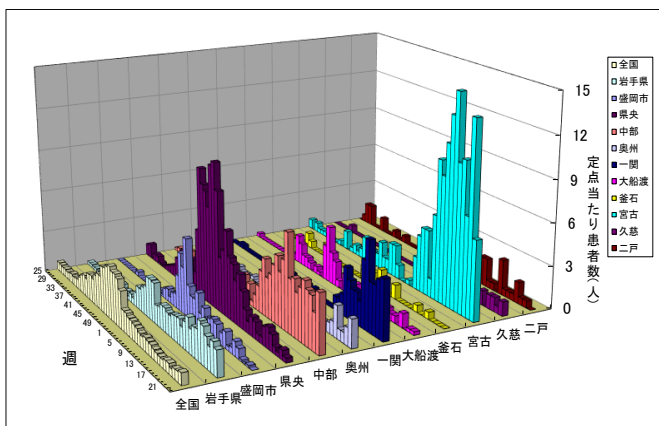


図3 全国、岩手県、盛岡市と各地区の咽頭結膜熱の発生状況
(2023年第25週～2024年第21週)

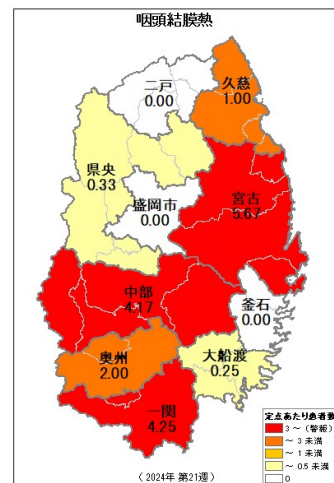


図4 第21週の保健所管内別の状況

※国土交通省国土政策局「H29年1月1日時点国土数値情報(行政区域データ)」をもとに岩手県が編集・加工した。
※この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図(国土基本情報)電子国土基本図(地図情報)を使用した。(承認番号 平29情使、第675号)

【参考】

- 咽頭結膜熱とは (国立感染症研究所)
<https://www.niid.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/323-pcf-info.html>
- IDWR注目すべき感染症 (国立感染症研究所)
<https://www.niid.go.jp/niid/ja/adeno-pfc-m/adeno-pfc-idwrc.html>

今注目の感染症

新型コロナウイルス感染症

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は、コロナウイルス科ベータコロナウイルス属の新型コロナウイルスによる急性呼吸器症候群です。

2023年第19週（5月8日～14日）から全数把握対象疾患ではなく、五類感染症の定点把握対象疾患となり、県内の発生動向は定点医療機関からの患者数の報告に基づいて公表しています。

2023年第19週以降の国内と県内の定点当たり患者数は図1のとおり、2023年第19週から第52週までの県内年齢層別の定点医療機関患者数割合は図2のとおり、2024年第21週の県内保健所管内ごとの定点当たり患者数は図3のとおりです。予防には、咳エチケットや手洗いなど普段からの感染症予防対策に努めていただくとともに、「3つの密」（換気の悪い密閉空間、人が多数集まる密集場所、間近で会話や発声をする密接場面）を避けるようにしましょう。

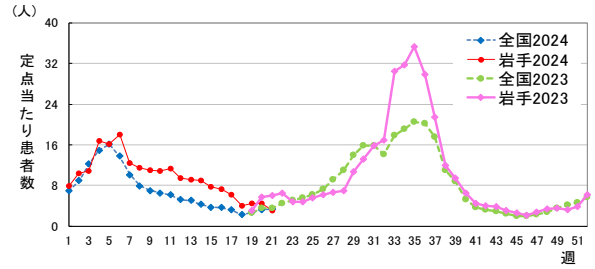


図1 全国及び岩手県の状況(2023年第19週～)

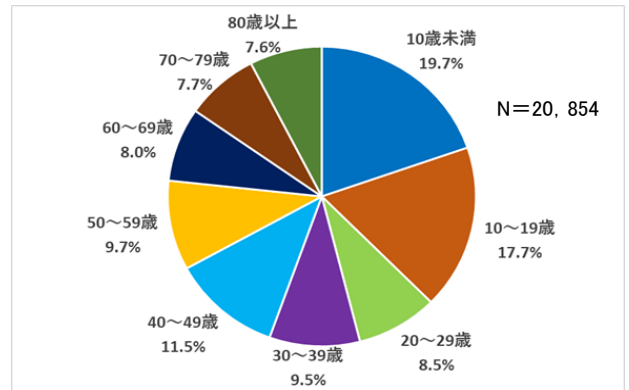


図2 年齢層別定点医療機関患者数割合(2023年第19週～52週)



<<岩手県の電話相談窓口>>

○いわて健康フォローアップセンター

受付時間 24時間 全日（土日・祝日含む）

TEL:0570-089-005 FAX:050-3730-7658

- ① 発熱等の症状が生じた場合、まず「かかりつけ医」に電話でご相談ください。
- ② 相談先に迷う場合や「かかりつけ医」がない場合は、上記フォローアップセンターにご相談ください。
- ③ ①又は②の紹介・案内に従い「診療・検査医療機関」を受診してください。

詳しくは、岩手県の新型コロナウイルス感染症のホームページを御覧ください。

<https://www.pref.iwate.jp/kurashikankyou/iryuu/covid19/index.html>

また、新型コロナウイルス感染症の最新情報については、厚生労働省及び国立感染症研究所のホームページで随時更新されています。ご確認をお願いします。

◆参考

新型コロナウイルス感染症について－厚生労働省－

https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000164708_00001.html

新型コロナウイルス（2019-nCoV）関連情報について

－国立感染症研究所－

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/diseases/ka/corona-virus/2019-ncov/9324-2019-ncov.html>

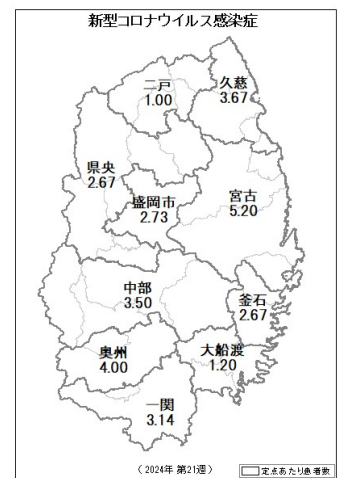


図3 第21週の保健所管内別の状況

※国土交通省国土政策局「H29年1月1日時点国土数値情報（行政区域データ）」をもとに岩手県が編集・加工した。
※この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図（国土基本情報）電子国土基本図（地図情報）を使用した。（承認番号 平29情使、第675号）

集団感染情報

○新型コロナウイルス感染症によるクラスターの発生について(令和6年5月29日発表分)

- ・岩手県 3件
- ・盛岡市 0件

○インフルエンザによる学校等の休業措置について（令和6年5月23日発表分）

- ・岩手県 0件
- ・盛岡市 1件

詳細は岩手県医療政策室のホームページをご覧ください。

<https://www.pref.iwate.jp/kurashikankyou/iryuu/kenkou/influ/1060843.html>



病原体検出情報

- ・流行性角結膜炎の患者の結膜擦過物からアデノウイルス3型を2件検出しました。
- ・新型コロナウイルス感染症患者の咽頭ぬぐい液からライノウイルスA10及びパラインフルエンザウイルス3型を各1件検出しました。

医療機関からの情報

- ・この週には医療機関からの情報はありません。

Q & A

読者の皆様からのご質問にはこの欄でお答えします。

医療機関からの情報や読者の皆様からのご質問は下記の宛先までお寄せください。

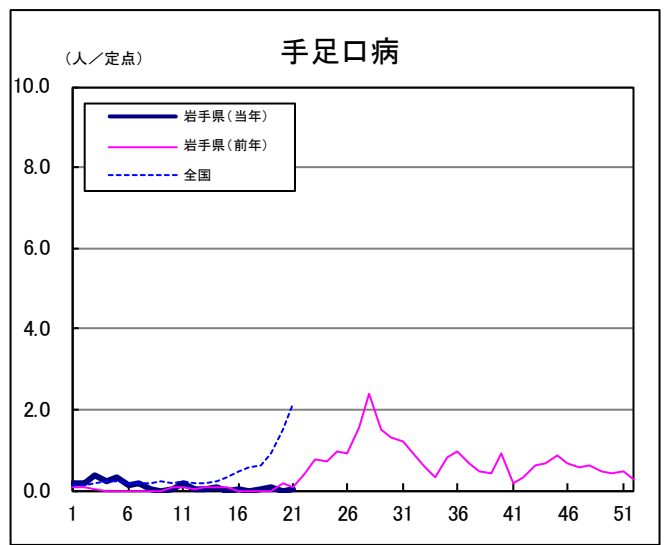
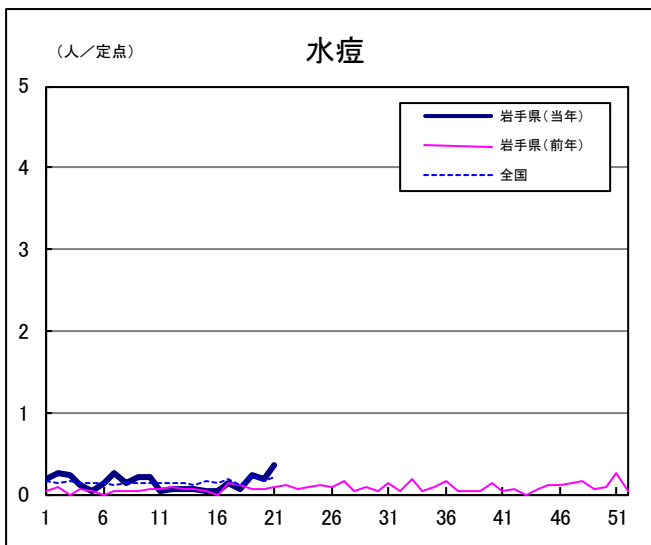
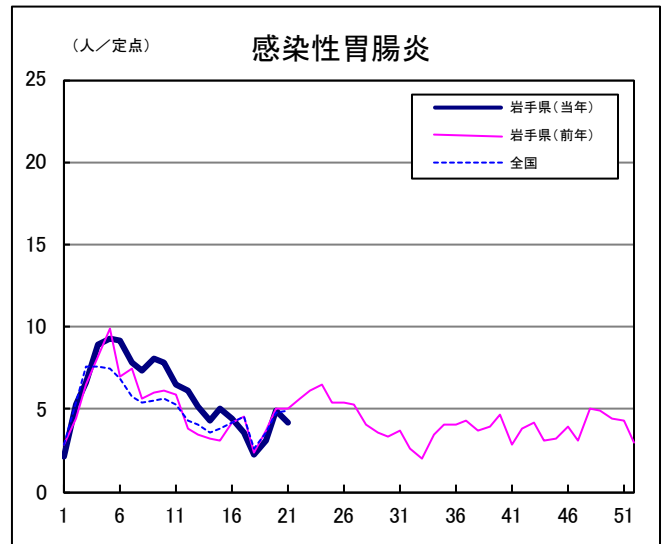
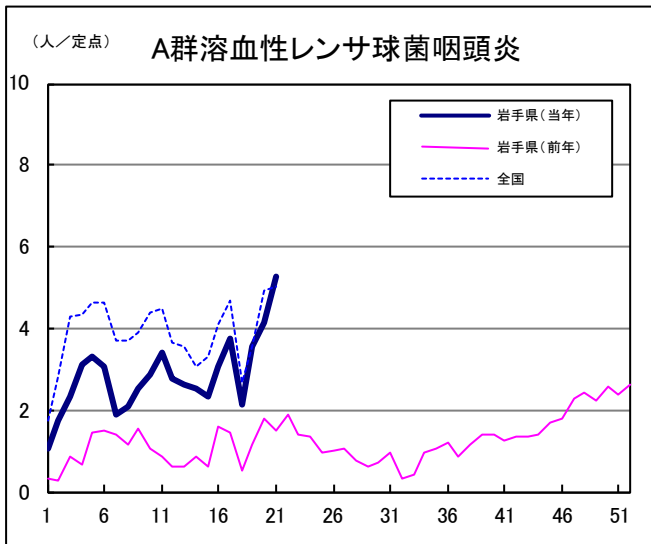
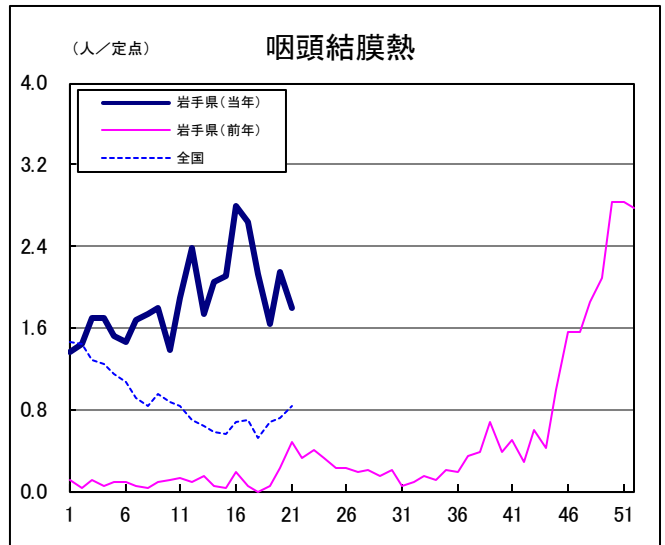
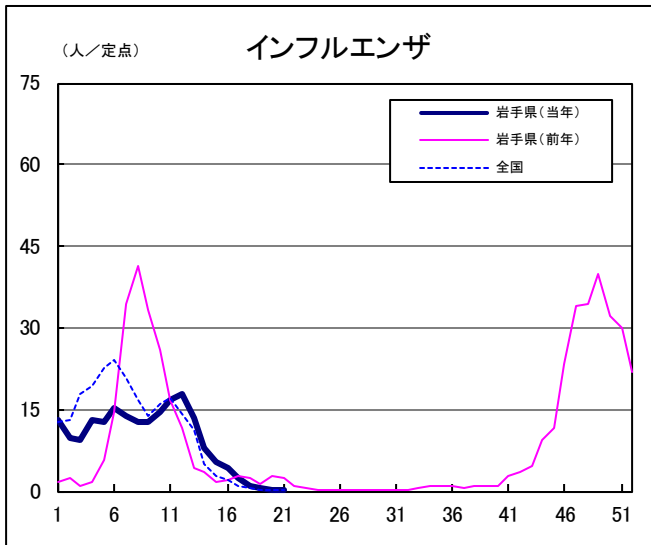
岩手県感染症情報センター（岩手県環境保健研究センター保健科学部内）

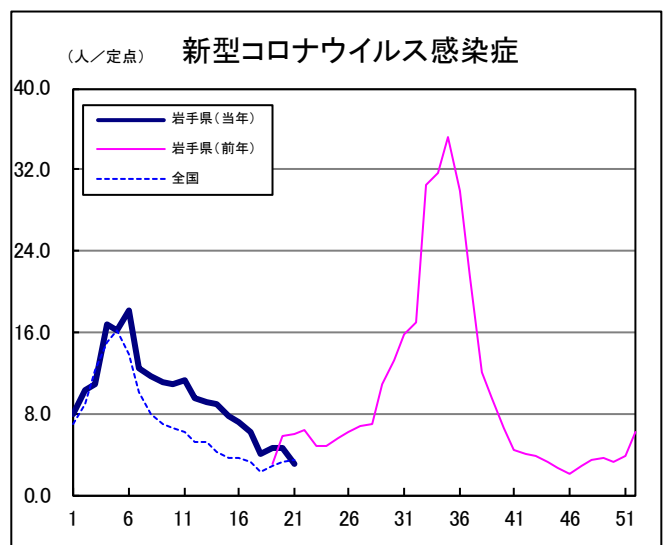
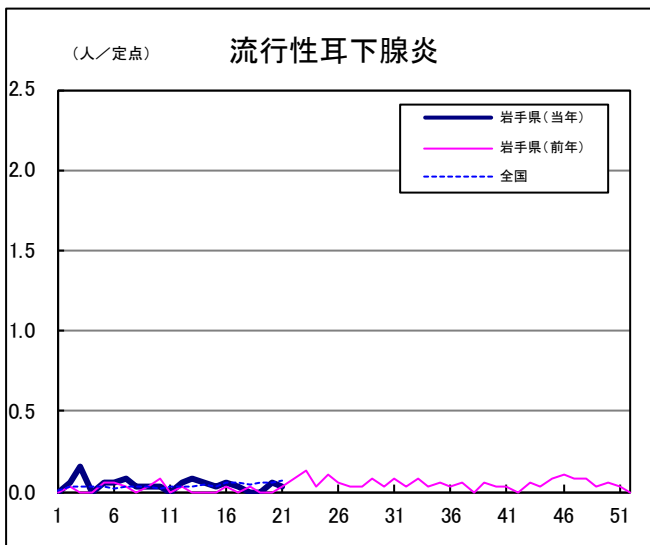
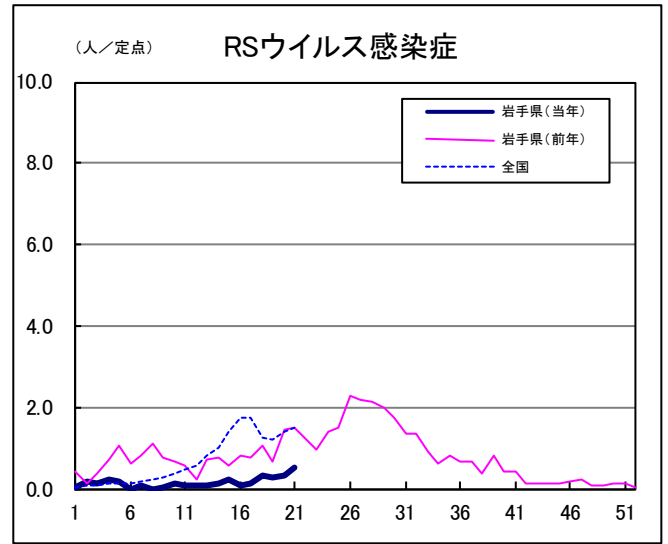
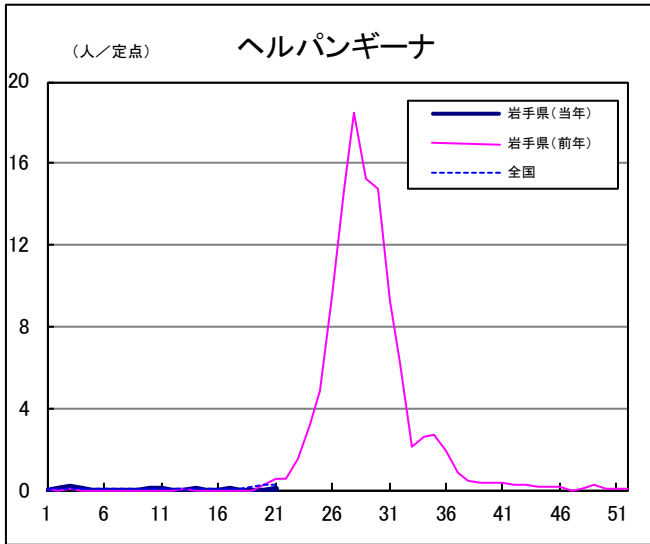
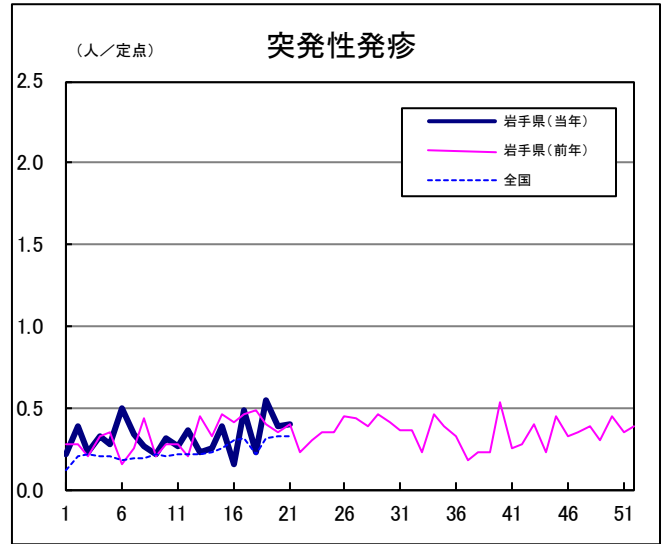
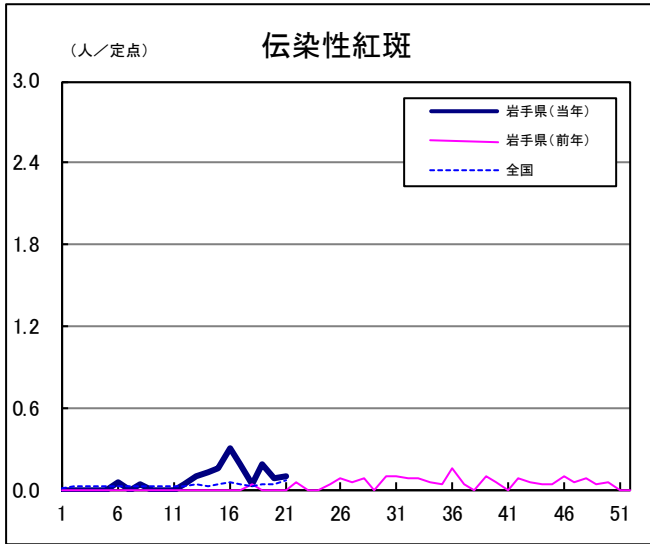
〒020-0857 岩手県盛岡市北飯岡1-11-16

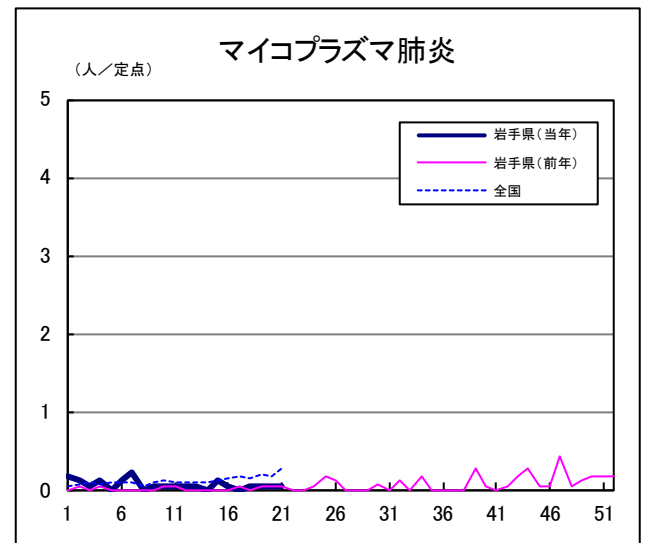
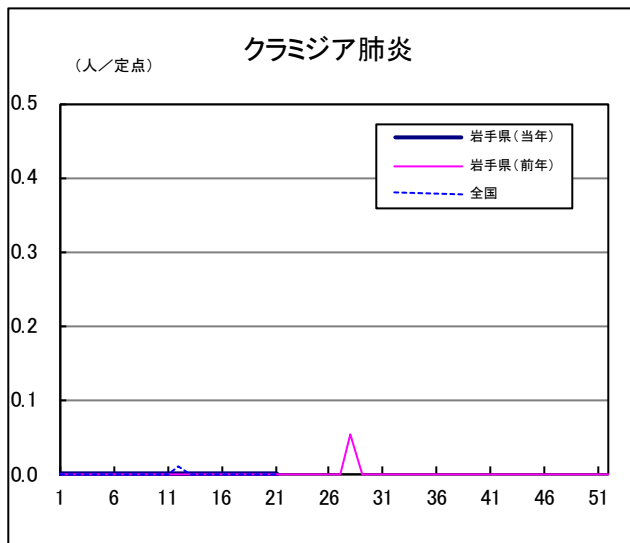
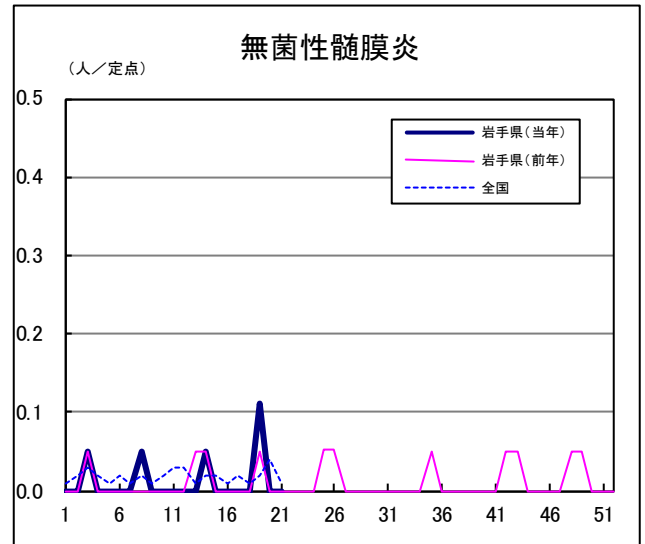
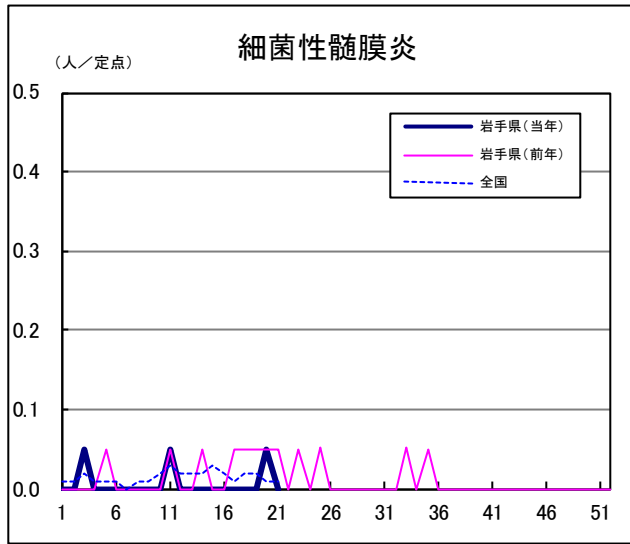
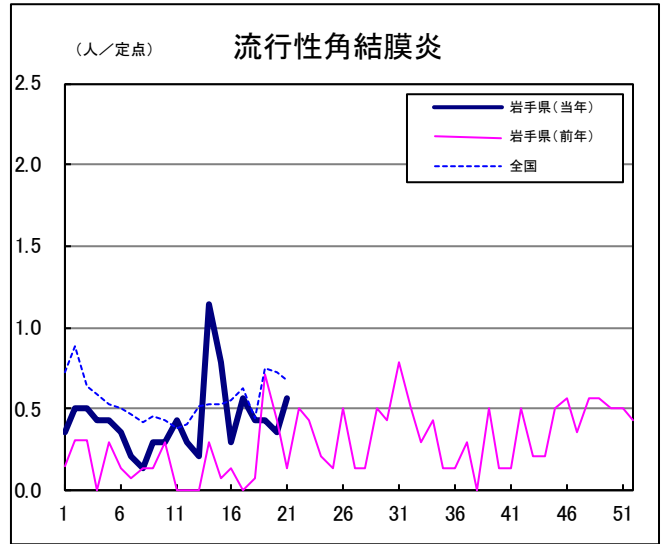
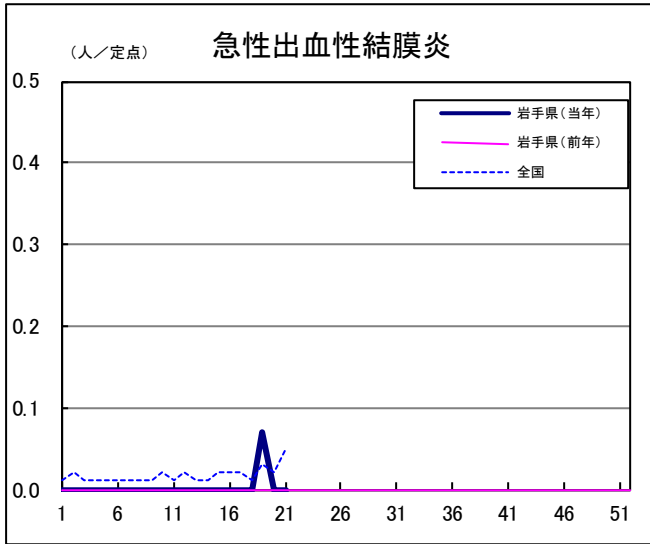
TEL:019-656-5669（直通） FAX:019-656-5667

E-mail: CC0019@pref.iwate.jp

疾病別グラフ (定点あたり患者数の推移)







定点医療機関の数

地区	定点種別 インフルエンザ /COVID-19	小児科 定点	眼科定点	基幹定点
岩手県	63	40	14	19
盛岡市	11	7	3	4
県央	9	6	2	1
中部	10	6	2	4
奥州	7	4	1	2
一関	7	4	1	2
大船渡	5	4	1	1
釜石	3	2	1	1
宮古	5	3	1	1
久慈	3	2	1	1
二戸	3	2	1	2



無料です!!

岩手の感染症情報を毎週メールでお届けする

「岩手県感染症情報ウィークリーマガジン」を配信しています。

配信の登録は以下のURLからお願いします。

<https://www2.pref.iwate.jp/~hp1353/kansen/mailmagazine.html>

岩手県感染症週報 令和6年第21週 令和6年5月31日発行

監修：岩手県感染症発生動向調査協議会

発行：岩手県環境保健研究センター
岩手県保健福祉部医療政策室

事務局：岩手県感染症情報センター
(岩手県環境保健研究センター保健科学部内)

〒020-0857 岩手県盛岡市北飯岡1-11-16

TEL:019-656-5669 (直通) FAX:019-656-5667

E-mail: CC0019@pref.iwate.jp

URL: <https://www2.pref.iwate.jp/~hp1353/kansen/>

<岩手県感染症情報センター>

<https://www.pref.iwate.jp/soshiki/hofuku/1016013.html>

<岩手県保健福祉部医療政策室>